

無垢フローリングの施工要領書

正しく施工すれば末永く快適にご利用頂けます。

■施工前の注意点

床下に湿気がこもらないように必要な換気を行います。

12mm以上の耐水合板(JAS認定:F☆☆☆☆対応品)で捨貼りをを行いフローリング施工前の状態で十分な強度を持つように下地を施工します。床下に湿気を感じる場合は、根太と捨貼り合板の間に0.1mm厚以上の防湿シートを敷き込み床下からの湿気を防ぎます。【図A】

壁際には相応のクリアランスを設け、巾木などで隠します。【図B】

天然無垢材は1枚毎に色合いが異なります。貼り始める前に仮並べをして色合いのバランスを取ります。

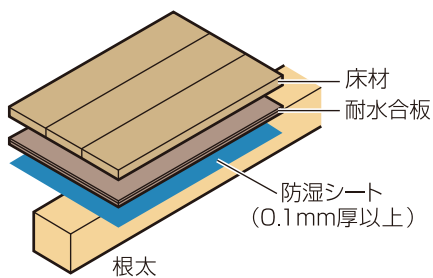
また、その際に必ずフローリング材に瑕疵がないかを確認します。【図C】

施工を始める前に汚れ・埃などをきれいに除去した後、下地が完全に乾燥していることを確認した上で施工を始めます。

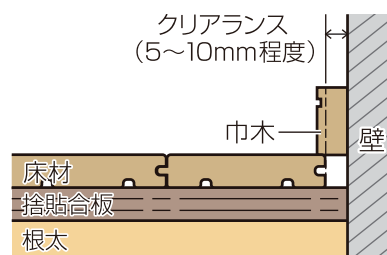
※直貼対応品の注意点

カルブが貼られた直貼対応品の場合、捨貼合板がないため必ずセルフレベルを用い不陸が出ないように(特に壁に近い周辺部)に下地調整を行って下さい。但し、石膏系のセルフレベルは接着不良の原因となりますので使用は出来ません。なお、セルフレベルの含水率が10%以下になるまで養生します。施工後、夏場は3週間以上・冬場は4週間以上が目安です。

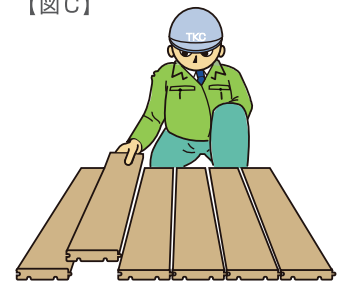
【図A】



【図B】



【図C】



■施工時の注意点

無垢フローリングの施工は糊釘併用で行います。

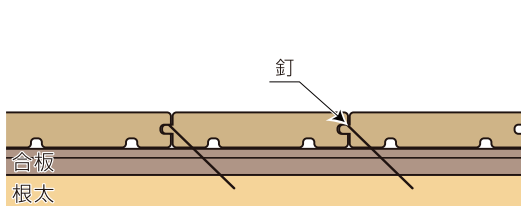
釘はフローリングの厚みによって相応の長さのフロー用スクリュー釘、またはフロアタッカー用ステーブルを使用し、雄実部分から根太に固定します。【図D】

接着剤は2液タイプの床工用エポキシ樹脂系(コニシ:E350R同等)を使用し、フローリングの裏面全体に全面塗布します。実部分には接着剤を使用しません。室温が10℃以下の場合、接着性が低下しますので室内及び下地を温める等の対応が必要です。

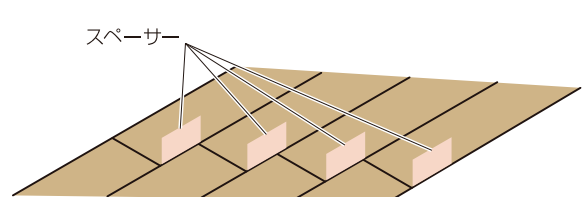
実は強く打ち込まず、フローリング間に名刺1~2枚程度のクリアランスを設けて施工します。強く打ち込み過ぎるとフローリングが湿気等により膨張した際に突き上げの原因となります。【図E】

なお、同施工のスペーサーとしてPPバンド等を使用することも出来ます。

【図D】



【図E】



※この“スペーサー”は梱包されていません。



無垢フローリングの施工要領書

■施工後の注意点

施工後は接着剤を落ち着かせるのに1週間程度の養生期間を取ります。

施工後の清掃は乾いたモップやよく絞った雑巾を使用し、どうしても取れない汚れは部分的に中性洗剤を使用します。木質フローリングは水分を嫌いますので、フローリングにこぼした水分は放置せず、すぐに拭取るようにします。

木質フローリングを無塗装のまま使用することは美観上・耐久性の面から商品劣化を早めます。フローリングが無塗装で納品される場合でもお引渡し前に必ず塗装を行って下さい。また、無塗装で納品される無垢フローリングに直接メンテナンス用の水性樹脂ワックスを塗布すると反り・暴れや白濁の原因となりますので水性樹脂ワックスを直接使用することはお止め下さい。

養生シートは必ず通気性のあるものをご使用下さい。通気性がないブルーシート等を使用すると施工後に湿気がこもり、フローリングの反り、暴れ等の原因となります。また、養生シートは壁面に15cm程度立ち上げその上から養生板を壁面から離して敷き養生テープで養生シートと養生板を固定して下さい。塗料の剥がれや変色の原因となりますのでフローリングに直接養生テープを貼る事は出来ませんのでご注意下さい。

■メンテナンスについて

フローリングのメンテナンス方法は使用されている塗料によって異なります。事前に塗布されている塗料の種類を確認し、引き渡し後に正しくメンテナンスが施されるようにお施主様にご説明下さい。

○ウレタン系塗料の場合

UVやウレタン系塗料で仕上げられたフローリングのメンテナンスは、定期的に水性樹脂ワックスを使用して行います。一般的に床材用水性樹脂ワックスはホームセンターなどで入手出来ますが、当社ではリンレイ社の木質床材専用樹脂ワックス“ハイテックフローリングコート”を推奨します。又、同ワックスにはつやの出る通常品の他“つや消し40”と“つや消し20”があります。フローリングの質感に合わせてお選び下さい。

○オイル系塗料の場合

自然オイル系塗料(オスモカラー・蜜蝋ワックス等)で仕上げられたフローリングのメンテナンスは最初に塗布されたオイルメーカーの専用メンテナンスオイルを上塗りして行います。それらのメンテナンスオイルは一般的にホームセンターなどでは入手が困難ですので、該当塗料メーカーのホームページなどを通じて購入して下さい。なお、同メンテナンス要領の詳細に関しては、各塗料メーカーに直接お問い合わせ願います。

■お引渡し後の注意点

先述の通り、木質フローリングに水分は大敵です。お施主様の入居後も水分をこぼした場合は放置せず直ぐに拭きとるようにして下さい。

日頃のお手入れは掃除機や乾いたモップ、またはよく絞った雑巾等を使用し、どうしても取れない汚れは部分的に中性洗剤を使用します。木質フローリングは水分を嫌いますので、フローリングにこぼした水分は放置せず、すぐに拭取るようにします。

直射日光に長時間さらされるとフローリングが変色する場合があります。大きな開口部からの直射日光はカーテンやブラインド等で遮るようにしてください。

キャスター付の椅子やテーブルを使用するとフローリング表面が傷つく場合がありますのでご注意下さい。

